

きたかみ未来創造会議

創造NEWS 第16号

2010.3.18
第16回会議
指標の優先
順位と水準
を共有するの巻

今回は、前回から引き続き「目指すべき将来の姿をあらわす指標」と「5年後、10年後の目指すべき値」の検討と分野間での共有を行いました。

■第16回「きたかみ未来創造会議」の概要

今回は、今年度の議論をまとめる作業を行い、分野での検討の成果を全員で共有することを目的として実施しました。

具体的な内容としては、最初に平成22年度のスケジュールを確認したのち、今回の目的確認を行いました。

グループワークは、はじめに前回検討しきれなかった部分（目指すべき値や選定した理由）を確認・検討し、その後分野ごとに口頭で発表となりました。

発表の内容は、「目指すべき将来の姿」とそれをあらわす「指標」、そして既存データがあるものに関しては「5年後と10年後の目指すべき値」です。

各分野とも、今年度の議論を積み重ねてきた部分を丁寧に発表をしていただきました。

その後は、各分野における意見交換会となります。今回も時間の制約があり、付箋に意見を記入し、各分野にそれを持っていく形式で行いました。

やはり、違った視点からの意見はとても参考になることも多く、分野間で検討していた内容を確認・補完するためにはとてもよい機会になったと思います。

平成22年度は、4月から6月まで4回の予定となっております。

今回検討した目指すべき将来を実現化するために、市民・企業・行政などさまざまな主体がどのような役割を担うべきかを検討し、最後には、これまでの議論の内容をまとめた提言書の確認となります。

最後のラストパートの4回です。平成22年度もよろしくおねがいします。

<次回案内>

●日時：4月22日（木曜日）18：30～

●場所：市民交流プラザ（ツインモール西館）

※場所が変更します。ご注意ください。



次年度のスケジュールの確認



指標の検討



各分野での検討結果の発表



分野間での意見交換

＜それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標＞

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：保健福祉

A1 出産に対しての不安がやわらぎ、だれもが安心して産むことができる

妊婦検診率 (ほ105)	周産期死亡率 (ほ4)	産前産後の出産休暇、出産に伴う、男性が育児休暇を取る割合(ほ15)	出生率の向上 (ほ1)
現：88.6% ⑤：95% ⑩：99% ・確実に受診してほしいため	現：1.1% ⑤：0.8% ⑩：0.5% ・現状より低くなるべき	現：0.8% ⑤：5% ⑩：10% ・政府目標が10%であることから、10年後は10%、5年後は5%にしました。	

A2 育児に対しての精神的、経済的不安が少なく、親と子供達が健康に暮らせる

育児世代の両親で、育児環境が整備され、安心して子育てが出来たと感じる割合	育児休暇利用率 (ほ14)	子育てサークルの利用者数	乳幼児の死亡率の減少 (ほ6)
	現：32.8% ⑤：50% ⑩：80% ・政府目標が80%であることから、10年後は80%、5年後は50%にしました。		現：1.1% ⑤：0.8% ⑩：0.5% ・A1の周産期死亡率と同様の水準にもっていければ。

・育児休暇が取れない(取りにくい)職場の改善

A3 働きながら子育てしやすい保育環境が整い、だれもが安心して子供を育てられる

保育園の待機児童数 (ほ13)	放課後児童クラブ入所者数(ほ22)	男性が育児休暇を取る割合 (ほ15)	育児に対して不安を持つ人の割合
現：68人 ⑤：0人 ⑩：0人 ・なくなるのが理想	現：1147人 ⑤：1147人 ⑩：1147人 ・児童数の変動予想が難しいため、同じ値で推移。	現：0.8% ⑤：5.0% ⑩：10.0% ・政府目標が10%であることから、10年後は10%、5年後は5%にしました。	

・市内18学校区のうち17学校区に整備されているので18学校区全部にしてはどうでしょうか。
・男性が育児休暇を取る割合 よい指標だと思います。

A4 育児相談が気楽にできる環境が整い、地域とともに責任をもって子どもを育てられる

地域子育て支援センター利用者数(ほ100)	子育て相談できる人がいると感じる割合(ほ28)	育児環境への満足度 (ほ8)
現：24,240人 ⑤：24,240人 ⑩：24,240人 ・児童数の変動予想が難しいため、同じ値で推移。	現：91.4% ⑤：95.0% ⑩：95.0% ・100%は無理ではないかということで、95%に。	現：3.5 ⑤：4.0 ⑩：5.0(6段階評価) ・飛躍的には上がらないと思うが、上昇が望ましい。

・目指す将来像達成に現状維持の根拠を補足説明欲しい。

A5 年をとっても、障がいがあっても必要に応じて支援や福祉サービスを受けられる

高齢者のボランティア活動、地域活動への参加率 (ほ40)	障がい者支援施設、団体の利用者数(ほ106、107)	専門的資格をもって携わる人の数
現：26.98% ⑤：40.0% ⑩：50.0% ・老人クラブ会員が減少しているため。	現：45.9人、68.0人 ⑤：50.0人、70.0人 ⑩：60.0人、80.0人 ・施設の利用者、団体の利用者ともに上昇。	

・満足度的な指標もあった方が良いのでは。
・専門的資格者の数の把握は重要。北上市で把握していない事では充実度が計れない。
・高齢者の支援サービスについてはもりこまなくてよいものかと思いました。

A6 高齢者が身体的、精神的に健康で安心した生活を送り続けることができる			
高齢者のボランティア活動、地域活動への参加率（ほ40）	生きがいを持っている高齢者の割合（ほ41）	高齢者雇用率（ほ42）	
現：26.98% ⑤：40.0% ⑩：50.0% ・老人クラブ会員が減少しているため。	現：90.1% ⑤：90.0% ⑩：90.0% ・現状値が9割を超えているので現状維持。	現：16.0% ⑤：20.0% ⑩：25.0% ・雇用を希望している方の率？ 全体の率？どちらかわからないが、極端な上昇はないだろう。	
<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターの活動と思われるが、実際見たことがあるので良い指標と思う。 ・高齢者のボランティア、生きがいの指標を評価。 			
A7 障がい者が自立した生活を実現できる環境がある			
障がい者雇用率（ほ47）	福祉施設から一般就労への移行数（ほ52）	授産施設利用者数（ほ49）	
現：1.38% ⑤：3% ⑩：5%	現：7人 ⑤：7人 ⑩：5人	現：167人 ⑤：200人 ⑩：220人	
<ul style="list-style-type: none"> ・縮小することの説明を。 			
A9 積極的な健康づくりと疾病予防によって市民が充実した暮らしを送ることができる			
1人あたりの医療費（ほ59）	特定検診受診率（ほ61）	生活習慣病罹患率	
現：276,091円 ⑤：250,000円 ⑩：220,000円 ・1割ぐらい減るのが望ましい。	現：41.3% ⑤：市の指標に合わせる ⑩：政府の指標に合わせる		
<ul style="list-style-type: none"> ・受診率 市と国の数値をあげる。 			
A10 かかり医制度の充実と医療機関の開かれた連携によって、情報提供システムができ適切な医療サービスを受けられる			
開業医と総合病院の連携の充実が感じられる割合	人口あたりの医師、歯科医師数（ほ101）	救急車平均搬送時間（ほ70）	医療サービスへの満足度、医師、歯科医の数の充実
	現：202.3人/10万人 ⑤：210/10万人 ⑩：220/10万人	現：32.5分 ⑤：31分 ⑩：30分 ・ほぼ現状の値	
<ul style="list-style-type: none"> ・救急車平均搬送時間 もう少し早い基準を設けても良いのではないかと？ ・高齢化に対して良い。 			
A11 病院や地域でのリハビリテーションが充実している →指標が出しづらい、他の指標に含まれているだろうということで削除			
介助ボランティア数	リハビリ専門医の増加	障がい者や高齢者を持つ家族の中で、身近に相談できる人	
<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数（児童相談所への）はどうでしょうかと思いました。 ・リハビリ専門資格者 専門医の増加をしっかり、目標をとらえて充実していくべき。 			
A12 地域で、互いに支え合い知恵を出し合って、誰もが安心して暮らせる			
この地域に住んで良かったと思う人の割合	人口当たりの自殺率（ほ83）	乳幼児、児童虐待件数（ほ10）	
	現：37人/10万人 ⑤：20人/10万人 ⑩：10人/10万人 ・半減していく	現：53件 ⑤：25件 ⑩：0件 ・半減していく	
<ul style="list-style-type: none"> ・縮小することの説明を。 			
A13 身体的・社会的・経済的などあらゆる不安や困難に陥ったときに安心して話せる			
不安に陥った時に相談できる場所があると感じる人の割合	民生委員の相談指導件数（ほ103）	福祉協力員への相談件数（ほ104）	見守り活動を行っている人の数、地域での福祉活動への参加者数
	現：8,994件 ⑤：9,500件 ⑩：7,500件 ・周知によって5年後は増加するが、10年後は減少するであろう。	現：108,933回 ⑤：115,000回 ⑩：115,000回 ・微増し、10年後はそのままになるであろう。	
<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の相談指導件数が多い方が良いのか、少ない方が良いのか。 			

＜それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標＞

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

＜それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標＞

分野：教育文化

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

B1 特色ある教育の実践と進学への支援により、優秀な人材が生まれている

標準学力検査及び学習定着度 状況調査における正答率の上 昇（⑤3）	中学生の中で学びたいことが ある子どもの割合	学校が楽しいと感じる児童、生 徒の割合（小学生、中学生）
現：111/98 ⑤：115/100 ⑩：120/105 全国平均を 100 とした場合の数 値（小学4年生/中学2年生） ・1年1%上げることを目指す		

- ・正答率の説明もっとくわしめに・・・あるとよいですね。
- ・地道な努力が必要な事項です。適正な数値目標と思います。
- ・評価 B全て 行政がらみの数値以外からも数値をひろおうとしている。

B2 地域・家庭の連携により、子どもたちが生き生きと生きる力を育む学習環境が整っている

子どもの教育について学校、家 庭、地域の連携が十分だと思う 割合	地域の人で学校教育に関わっ た人の数（市民全般の中で）	児童生徒のボランティア参加 者数

- ・児童生徒の地域活動への参加者数
- ・学校教育に関わった人→学校の環境や生活にボランティアで関わった人

B3 高等教育機関が創設されていることによって、より教育内容が豊かになっている

創設された高等教育機関の数	就職率 （⑤1）	中途退学率 （⑤110）
	・就職希望している人の就職率 のデータが必要！	現：0.99% ⑤：0.5% ・高校生対象 ・0が望ましいので、毎年0.1% 減を目指す。

- ・中途退学率 0が望ましいと考える理由
- ・進学率を加える
- ・B3と中途退学率の関係が？
- ・「豊かさ」のイメージがつきにくいかもしれませんね→進学率？カリキュラム数？
- ・就職率→B7？
- ・高等教育機関の誘致・設立は市の発展のためには絶対必要。目標を立てるべき。

B5 より多くの市民が自ら質の高い生涯学習の機会を創出することによって、より豊かな生活を送っている

市内生涯学習事業への登録者 数と申し込み者数	生涯学習事業への参加者数 （⑤16）	市民1人あたりの図書館から の図書貸出冊数 （⑤102）
	現：67,709人 ⑤：80,000人 ⑩：100,000人 ・交流センターの休日開催を増 すと参加者数が増えるのでは。 （講座数）	現：5.5冊 ⑤：6.0冊 ⑩：6.5冊 ・過去が増えていないので… 開館時間の延長を見込んで。

- ・市内生涯学習事業への登録者数とは？
- ・現在生涯学習の満足度は高かったと思うので参加者数の増加を見込みすぎではないか

B7 産官学が提携することによって、先端技術を取得できる教育環境がある

産学官連携における講座数 (ぶ22)	産学官連携における講座の職場 からの受講者数(一般)(ぶ23)	
現：26 講座 ⑤：30 講座 ⑩：40 講座 ・職業の多様化、景気が低成長	現：662 人 ⑤：800 人 ⑩：1,000 人 ・先端技術の必要性	

・サイエンスカフェ数(先端技術への入口として)

B8 誰もが健康や競技など、それぞれの目的にあったスポーツを、目的にあった指導により実践することができる

年齢型スポーツの機会数	定期的にスポーツを行っている人の割合	スポーツ環境に対して満足している人の割合
・各地域の交流センター、スポーツのデータも欲しい。		

・年齢型スポーツとは？

・市民体の結果などを取り入れれば、もっと具体的にわかるのでは。

B10 守り育ててきた民俗芸能や文化財の価値を市民が理解し、次世代につなげることができる

30歳までの若者の中で、伝統芸能を継承しているグループに所属している人の割合	民族芸能と文化財に係る事業の数	民族芸能を発表する機会の数 (ぶ111)
		現：32回 ⑤：35回 ⑩：35回 ・各地区の主催も加味し、現状の高い水準を維持したい。

・発表の機会の数はいいと思います。

・地区火防祭11まだまだ多いのでは。

B11 市民誰もがさまざまな文化活動に触れる環境が整い、地域の特性を生かした生活を送ることができる

芸術文化活動の総参加者数 (ぶ39)	教育文化施設の利用者数(詩歌文学館、博物館など)(ぶ104)	芸術文化活動の数
現：5,797人 ⑤：8,000人 ⑩：10,000人 ・文化活動(生涯学習に伴う)	現：35,576人 25,792人 261,419人 ⑤：36,000人 26,000人 300,000人 ⑩：36,000人 存続の検討(建物・企画) 300,000人 上から順に、詩歌文学館、博物館、さくらホール	

・芸術文化活動の参加者数は何の数の統計か説明してほしい

・博物館の移転(市内)改築の提案、期待数

・「文化活動に触れる」講演やコンサート、〇〇展などの開催数はどうでしょうか・・・補助指標など

・さくらホールはもっと伸びてもいいのでは？

・存続の可否を検討する点を評価。

・博物館10年後の存続検討 賛成です

B12 さまざまな国際文化に触れる環境が整い、多様な価値観を受容し、さまざまな文化と交流できる人材が育っている

学校教育に国際理解教育時限数 (単なる英語の授業や社会科教科書の学び以外、人と人との交流)	国際交流ボランティア数 (ぶ44)	国際交流行事の数 (ぶ105)
	現：178件 ⑤：200件 ⑩：230件 ・交流人財を多くするため	現：7回 ⑤：7回 ⑩：7回 ・現状維持。

<それぞれの目指すべき将来の姿に対する想定される指標>

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：産業雇用

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

C1 農業・商業・工業が特徴を活かした連携によって、多様な発展を続け、魅力がある職場が生まれ出されている

就職を希望する高校生（働こうとしている人）を対象に、魅力ある職場があると思う割合	農商工連携新規事業数	法人の数（さ107）	就業者数（さ24）
		現：2,402 法人 ⑤：2,400 法人 ⑩：2,400 法人 数値→現状維持 ・先行が見えない ・景気がわからない ・起業家が多くなる半面、辞める人数多い	現：48,495 人 ⑤：48,750 人 ⑩：49,000 人 理想は現状維持。 ・高齢化率が上がって働く人が増える。 ・人口が同じでも年齢層にかかわらず雇用がある

C4 それぞれの商店が独自の発想と資源の組み合わせにより、魅力ある商店街をつくり出している

市内の商店街で主に買い物をする市民の割合（市民全体にアンケートをランダムに）（さ20）	店舗数（事業所統計に基づく卸、小売、飲食、サービスの各業）（さ17）	中心市街地歩行者数（さ14）
現：93.8% ⑤：95% ⑩：95% ・商店街を循環型バスの運行する ・政策により増加させられる	現：2,997 件 ⑤：2,950 件 ⑩：2,900 件 ・インターネット販売の増加、百貨店化が進んでいるので、5年後10年後は減少傾向。 ・郊外型になっている	現：1,939 人 ⑤：2,000 人 ⑩：2,000 人 ・政策で商店・商店街をささえる仕組み

- ・店舗数 減少を盛り込んでいる（現実的）のがいいと思います。
- ・店舗数 減ってもいいのだろうか？
- ・魅力ある商店街をつくりだしているためには店舗数は現状維持あるいは増加が望ましいと思いましたが。ネット販売は北上発信もできると思いますので、それらも見込んでみてはいかがでしょうか。

C5 多様な産業構造が構築され、安定した産業・雇用形態が形成されている

有効求人倍率（さ3）	1人当たり分配所得額の向上（さ49）	市内経済成長率	就業者数（さ24）
現：0.33 ⑤：1.00 ⑩：1.10 ・目指すべき数値は1を超える数値。 ・努力しなければならぬ。	現：2,785,235 円 ⑤：2,850,000 円 ⑩：3,000,000 円 ・物価が上がっていることを想定		現：48,495 人 ⑤：48,750 人 ⑩：49,000 人 理想は現状維持 ・人口が同じでも年齢層にかかわらず雇用がある

C6 様々な資源を活かした、通年型観光の仕組みが構築されている

年間観光客数（さ27）	観光宿泊者数（さ28）	観光客に聞くリピーターの数
現：1,629（千人） ⑤：1,880（千人） ⑩：2,000（千人） ・北上を伸ばせる大きな観光、北上で伸ばせる分野。	現：186（千人） ⑤：200（千人） ⑩：220（千人） ・観光客が増えると宿泊者も増	

- ・工業観光も含むならばその説明もあるとよいかも

C7 地産地消の食糧循環サイクルが豊かになる→テーマが明確でないので削除

売上高、学校給食の地元産利用率（さ9?）

- ・市内食糧自給率

C9 市民が農業の大切さを理解し、地域全体で農業を支え、安心安全な食料が提供されている

市内産の農産品を進んで購入しようとする人の割合	地産地消率（学校給食） （さ9）	農業体験参加者数 （さ31）	農業産出額 （さ36）
（市民全体にアンケートをランダムにとる）	現：26.1% ⑤：30% ⑩：35% ・地域全体で支える ・地域と学校の相互関係 ・顔が見える ・安心な	現：135人 ⑤：160人 ⑩：200人 ・農楽校の開催等を増やす ・農業体験、情報を増やす ・他市、農家以外の人がいる	現：1,042（千万円） ⑤：1,000（千万円） ⑩：1,050（千万円） ・米が安くなっている ので、米以外で伸ばす（10年ぐらいかかるだろう）

C10 農業所得が向上し、新たな就農者が生まれ、安定的な農業経営ができる環境がある

市内産の農産品を進んで購入しようとする人の割合	新規就農者数 （さ39）	農家一戸当たり分配所得額の向上	農業産出額 （さ36）
（市民全体にアンケートをランダム的にとる）	現：46人 ⑤：50人 ⑩：60人 ・潜在事業を引き出す ・行政で機会を与える ・農業がブームになっている ・東京などで説明会をする ・北上で農業する強みがある		現：1,042（千万円） ⑤：1,000（千万円） ⑩：1,050（千万円） ・米が安くなっている ので、米以外で伸ばす（10年ぐらいかかるだろう）

・将来の農業に期待する

C12 学びたい技術の教育が受けられる環境が整っている

訓練・講座の受入れ数 （さ43）	資格取得者数	受講者の就職率	技能検定合格者の延べ人数 （さ44）	ものづくり体験教室等 （さ50）
現：423人 ⑤：500人 ⑩：600人 ・受入れ施設を運用するには行政・企業とも活用方法を協力し合う			現：165人 ⑤：180人 ⑩：200人 ・講座の受け入れ数も増えるため	現：1,797人 ⑤：2,000人 ⑩：2,200人 ・企業の意識変化、教育的な方向にも

C13 産業分野で活躍できる人材が育成され活躍することによって、地元産業が発展している

地元への就職率 （さ108）	ものづくり体験教室等 ものづくり人材育成の 受講者数 （さ50）	職業訓練施設の延べ訓練 人数 （さ43）	コンピューターアカデ ミー就職率（さ47）
現：43.3% ⑤：45.0% ⑩：50.0% ・地元で働きたい人は100%就職できるように。 ・働きたいと思う職場をつくっていく。 ・地元就職できる人。	現：1797人 ⑤：2000人 ⑩：2000人	現：423人 ⑤：500人 ⑩：600人	現：86.4% ⑤：83.0% ⑩：80.3% ・下がるが、就職できないという予想ではなく、企業教育の場として学生とともに就職している人が学ぶという考え

- ・地元への就職率 よい指標だと思います。
- ・訓練人数より卒業後の就職率も入れては？
- ・コンピューターアカデミー就職率がわかりやすかった 10年後
- ・コンピューターアカデミー就職率増加
- ・予想なら正しいかもしれないが、縮小することへの説明を。

＜それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標＞

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：生活環境

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

D1 北上の自然を市民が共通の財産としてとらえ、それを次世代につなげることができる

小中学生のうち、緑などの自然環境などに満足している市民の割合	次世代につなげる取り組みを行っている人の割合	環境学習講座受講者数（せ3）	自然を大切にしたいと感じる人の割合
		現：753名 ⑤：930名 ⑩：950名 ・北上市の人口の1割が受講してもらう。 （10年後の北上市人口予想が95,000人）	

D2 里山・農村などの保全・整備によって、自然と共生を維持することができる

市民一人当たりの緑地面積（せ4）	耕作放棄地面積（せ109）	野生動植物種類（せ10）	水辺で生息している生物の種類
現：13.12㎡ ⑤：13.38㎡ ⑩：14.00㎡ ・人口減少により自然的に増加する	現：306,051㎡ ⑤：306,051㎡ ⑩：300㎡ ・高齢化と人口減少により減少させるのではなく5年後は現状維持。10年後は少し減らす。	現：4913種以上 ⑤：4913種以上 ⑩：4913種以上 ・絶滅のおそれもあり、現状値を維持することが必要であるため。	

- ・生物の種類とか賛成
- ・人口が増加するが、環境整備が進むことにより、一人当たりの緑地面積が増える
- ・耕作放棄地 食料自給のため、0を目標に
- ・種の保護については地域に該当する種に絞ればわかりやすい

D3 自然破壊や人体に影響を与える公害を出さず住み良いまちとなっている

大気汚染物質に係る環境基準適合率（せ18）	環境保全協定締結事業所の協定基準遵守率（せ23）	騒音・悪臭等の状況に関する地区環境が良いと感じている市民の割合（せ100）
現：100% ⑤：100% ⑩：100% ・基準適合率100%を維持する。	現：95% ⑤：98% ⑩：100% ・自然破壊をさせないために協定基準遵守率を高め、100%にする。	現：58.2% ⑤：70% ⑩：80% ・理想は100%にしたいけれど騒音・悪臭と感じている者もいれば生活のためにその状況をしなければならぬ人もいるので5年、10年後10%ずつのUPでいく。

D4 新エネルギーの導入などにより、CO₂の削減に向けた仕組みが構築されている

総二酸化炭素排出量	太陽光発電量（せ28）	低公害車導入台数（せ25）	家庭エコ電化製品の導入率
	現：181.6万kWh ⑤：300万kWh ⑩：600万kWh ・全体の発電量がどれぐらいで、うち太陽光発電量がどれぐらいかわからないので、目標設定が難しかった。	現：360台 ⑤：500台 ⑩：1,000台 ・現状自動車登録台数33,000台。そのうち1%が現在の低公害車台数 5年後1.5%に（500台）、10年後3%に引き上げる（1000台）	

- ・現状を考えるともう少し多くてもいいのでは
- ・国のCO₂削減の内容も関係してくるのでは？
- ・10年すればほとんどの車が入り替わるので、低公害車の導入はもっと大きいのでは？
- ・政府のCO₂削減のための政策により今後どんどん増える。エコキュート、エネファーム。

D7 市民、企業、行政それぞれで3R(リサイクル・リユース・リデュース)などごみ減量のシステムが構築され、循環型の社会が形成されている

リサイクル率 (せ32)	1人1日あたりのごみ排出量 (せ31)	市民、企業、行政それぞれの取り組み割合(企業を対象に)
現: 23.5% ⑤: 25.5% ⑩: 27.5% ・過去4年で2%の伸びですが、他市と比べてもリサイクル率は高く、急激に伸び率は期待できないと思われるので5年で2%ずつ上げていく。	現: 806g ⑤: 790g ⑩: 774g ・急激に減らすのは難しい	

・評価 リサイクル率

D8 不法投棄がなく、ごみ分別のマナーが守られ、きれいなまちになっている

不法投棄発生件数 (せ36)	ごみステーションから回収されないごみの量(件数)	清潔なまちであると感じている市民の割合(せ101)
現: 15件 ⑤: 11件 ⑩: 7件 ・10年後に半分にする		現: 64.5% ⑤: 70% ⑩: 80%

D10 地域・家庭・学校などが連携し交通事故のない市民誰もが安心して安全に住めるまちになっている

交通事故発生件数死傷者数 (せ63)	交通安全教室啓蒙活動への市民参加(せ65)	交通違反者数 (せ66)
現: 発生 370件 死傷者 458人 ⑤: 発生 270件 死傷者 358人 ⑩: 発生 170件 死傷者 258人 ・過去の数値を参照し、毎年現状値より20人/件ずつ減らす	現: 12,369人 ⑤: 17,000人 ⑩: 17,000人 ・人口減少により、大幅な参加者数増は難しい。	現: 4,532人 ⑤: 4,000人 ⑩: 3,500人

D11 地域・家庭・学校などさまざまな防犯体制の連携によって、犯罪のない市民誰もが安心して安全に住めるまちになっている

犯罪件数(せ44)	青少年の犯罪・補導件数 (せ45-1、45-2)	市民を対象に、安全に安心して住めると感じる人の割合(せ41)
現: 715件 ⑤: 500件 ⑩: 400件	現: 犯 55、補 674件 ⑤: 犯 30、補 500件 ⑩: 犯 20、補 300件	現: 72% ⑤: 75% ⑩: 80%

D12 防災のための組織・連携構築と、災害に強い施設設備の充実によって市民の生活を守る

自主防災組織活動率	耐震診断実施戸数 (せ103)	耐震改修実施戸数 (せ104)

D13 市民が高い防犯・防災意識を持って、市民自らが生活を守ることのできる環境がある

災害に強いまちづくりに対する市民満足度(せ105)	防災訓練参加者数 (せ60)	救急救命の講習受講者数 (せ108)
現: 3.722 ⑤: 4 ⑩: 5(6段階調査)	現: 140人 ⑤: 150人 ⑩: 150人	現: 4,528名 ⑤: 4,500名 ⑩: 4,500名 ・5年後に世帯1人が受講するということで4500名ずつ受講

・せ108の世帯当り1人というのがよいと思います。
・防災訓練参加者数 140人?14,000人では。
・自主防災組織が各地域にあるので訓練の参加者はもっと多いのでは。

D14 地域で災害発生ポイントが共有され、安全な避難経路や避難施設が平時から理解されている

高校生以上を対象に、避難経路や避難施設を理解している人の割合	避難所看板設置率 (せ106)	土砂災害危険区域周知看板設置率 (せ107)	常に防犯防災に対して、対策を行っている人の割合
	現: 90% ⑤: 100% ⑩: 100%	現: 50% ⑤: 60% ⑩: 70%	

・看板はもっと早くに達成も可能でしょう。

＜それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標＞

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：基盤整備

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

E1 身体的・社会的などの背景が異なる全ての市民が不自由なく社会サービスを楽しむことができる

公共施設のバリアフリー整備施設数	公共施設の外国語案内数 (外国語だけでなく障がい者も)	市民の中で、市内を車で移動するときにスムーズにできていると思っている人の割合	追加(候補)身障者用の駐車スペースがある店舗数	追加(候補)車イスで入れる店舗数(飲食店)
市は調べてしかるべき!	市は調べてしかるべき!		・市は申請時だけでなく最終チェックも必要	・市は申請時だけでなく最終チェックも必要

- ・100%を目標にする気持ちはわかるが、達成できる値に設定した方が良いのでは?
→「目指すべき」です。将来予想ではないので・・・。
- ・車いすで入れる店舗数 よい指標だと思います。トイレも?
→バリアフリー整備施設数に入れて考えたいと思います。

E2 ひとにやさしく心地よく歩けるまちになっている

歩行者の中で、市内に歩きやすい道路環境があると感じる人の割合	歩道整備率 (ば103)	通学路における歩道整備率
	現：0.1365% ⑤：0.15% ⑩：0.20%	

E3 生活と産業を支える安定した上水道サービスが継続的に行われている

水道法に定められた水質基準の達成率 (ば12)	断水件数(断水事故、計画外のものを除く) (ば109)	水道水を飲料水として飲む人の割合
現：100% ⑤：100% ⑩：100% ・現状が100%なので、現状維持。	現：0% ⑤：0% ⑩：0% ・現状が0%なので、現状維持。	

E4 下水機能の整備・利活用がされ、快適になっている

水洗化率(ば18)	下水道普及率(ば15)	汚水処理施設整備済み人口/全人口 = 普及率
現：82.5% ⑤：90% ⑩：100%	現：60.4% ⑤：65% ⑩：70%	

- ・農集排もデータに入っていますか?
→入っています。
- ・下水加入率も必要では 加入者増えないと赤字続き・・・
- ・下水はつないでいる率(加入率?)をみることも必要かもしれません
→水洗化率=加入率とのこと。

E6 交通拠点との効率的な道路の整備によって生活・産業を支える道路ネットワークが構築されている

交差点滞留時間 (時間と場所を限定)	市道改良率 (ば23)	市道舗装率 (ば24)
	現：56.9% ⑤：59.0% ⑩：61%	現：51.4% ⑤：60% ⑩：80%

E7 効果的な除雪や道路補修により、安全な道路環境が構築されている			
市民への除雪に対する意識啓発・PR 数 (ば111)	道路に対する苦情率	追加(候補) 道路標識が見えなくなったり、植え込みによる死角の数	追加(候補) 除雪により道路幅がどれだけ狭くなったか？ 率
現：2回 ⑤：4回(区長だけでなく) ⑩：4回(理想は0) ・できれば啓蒙が進んで1回もなくなればよろしい。			
E8 高度情報網を使ったサービスによって、市民が生活機能の維持・充実している			
情報化によって便利だと感じている人の割合	高度情報サービス整備率 (ば31)	電子行政サービス利用者数 (ば32)	
(高度情報通信システムの確立に関するアンケートあり)	現：モバイル 99.9% BBゼロ 450 世帯 ⑤：モバイル 100% BBゼロ 0世帯 ⑩：モバイル 100% BBゼロ 0世帯	現：167件(HPのDLサービス)、4件(電子予約・図書貸出)、10件(メール配信・独自HP) ⑤：300、50、100 ⑩：600、150、200	
・具体的高度ITインフラの数値をもとにしていいと思いました。			
E10 持続可能な公共交通と地域での補完的交通により、市民誰もが快適に生活できる			
公共交通の利用のしやすさ (ば100)	公共交通利用者数 (ば37)	通学、通院や買い物で不便を感じている人の割合	
現：43.2% ⑤：70% ⑩：100%	現：電車 3,730人 バス 2,665人 ⑤：6,000人、 5,000人 ⑩：8,000人 7,000人		
・地域等のボランティア交通について実施数などもありかも・・・ ・新たな公共交通を整備する方向の話。現状はなくなる方向。 →本当はボランティア交通に頼らなくてもいいようにしてほしい。市は施策としてきちんと整備を。			
E12 自然と都市の調和の取れた計画的なまちづくりによって持続可能な都市構造になっている			
あなたはこれからも北上市に住み続けたいと思いますか？ (ば102)	市民の公園に対する満足度	北上市の土地利用制限についてあなたはどのように考えますか (ば101)	
現：87.2% ⑤：90% ⑩：95%	(お年寄りや子どもがいる方を対象に聞いてみる)		
E13 各地区と中心市街地が連携し、市民誰もが生活に必要なサービスを受けることができる			
公共交通の利用のしやすさ(ば100)	各地区から、中心市街地に気軽に簡便に行けると感じる割合	地域回遊歩行者や交通弱者等すべての利用者の安全な通行ができていると感じる割合	追加(候補) 買物・病院・交流の機会に満足しているか
現：43.2% ⑤：70% ⑩：100%	(地区限定で聞いてみる)		
追加(候補) 主要施設までの移動時間	追加(候補) これからも北上市に住み続けたいと思いますか	追加(候補) コミュニティバスの延長距離	追加(候補) コミュニティバスの運行回数・利用者数

＜それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標＞

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：推進体制

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

F1 市民・企業・行政がそれぞれの自治における役割を理解しそれを果たすことができる

住民自治

市民情報センターに登録する志願型の市民活動団体が行う年間事業数	地域貢献活動企業褒賞への情報提供事業数（もしくは、商工会議所加盟企業が行う地域貢献の活動数）(す 21)	まちづくり協働推進条例における「市民等の役割」の理解者数
	現：167件 ⑤、⑩：水準維持が理想	

- ・「上昇が望ましい」を数値で。5年、10年後も他と同じく示す。
- ・協働と行政。行政全体で取り組むことの説明。

F2 全ての世代がまちづくりを自主的に関わっており、より満足感のある社会になっている

住民自治

市政座談会の参加者数 (す 103)	市民意識調査における「市民と行政の協働体制づくり」の満足度 (す 104)	・市民活動情報センター事業利用者数 (す 105) ・北上市地域貢献活動褒賞における情報提供数 (す 21)
現：1003人 ⑤、⑩：増加していくのが望ましい	現：3.65 ⑤、⑩：増加していくのが望ましい	現：1183人 ⑤、⑩：増加していくのが望ましい 現：167件 ⑤、⑩：水準維持が理想

- ・年齢層も調べた方が良いのでは。
- ・市政座談会の参加者数 もう少し説明が欲しい。
- ・座談会？若い人の参加を知りたいのだろうか？
- ・年齢層「若い人」？それとも「かたよりをなくす」？
- ・全てのバランス！！
- ・高齢者による活動だけでは・・・若い人も！
- ・F4も？（地域づくり）

F4 それぞれが特色を活かした地域づくり活動が実践され、誇りと愛着をもった人・地域が形成されている
地域づくり

F4、F5の下線部同じ？

市内 16 自治組織が行うきらめく地域づくり交付金事業への延べ参加者数 (す 14)	市政座談会の参加者数 (す 103)	市内 16 自治組織が行うきらめく地域づくり交付金事業の事業数 (す 107→す 13)
現：35851人 ⑤、⑩：水準維持が理想	現：1003人 ⑤、⑩：増加していくのが望ましい	現：37件 ⑤、⑩：水準維持が理想

- ・10年間現状維持が目指すべき将来像達成の説明が欲しい
- ・きらめきの枠にしたことで値がある程度きまってしまう・・・
- ・きらめきの枠をはずしたりサーチが必要かも・・・

F5 活発な地域活動に行われており、生活機能が維持されている
地域づくり

地域が主体となって行う分の地域計画の進捗率	地域づくり活動数 (す 13)	40歳未満の市民活動への参加率
現：25.5% H21 推定値。H19 実績 (19.5%)にH20見込(6%)を加えた値。 ⑤、⑩：各地域で年度毎に設定する進捗率をクリアした地域の割合で見ると、増加傾向が望ましい		

F7 市民・企業・行政がそれぞれの立場を理解し、責任と役割のもとに、互いの長所を活かした協働ができる協働

市が行っている協働事業一覧に掲載されている活動の数 (す 24)	北上市地域貢献活動褒賞に関する情報提供における市民と企業とが協働して行った地域貢献活動数 (H21 値。地域活動、アドプト、公共施設点検、地域インフラ整備等支援が対象)(す 109)	市民意識調査における「市民と行政の協働体制づくり」の満足度 (す 104)
現：24件 ⑤、⑩：アップするのが望ましい	現：53件 ⑤、⑩：アップするのが望ましい	現：3.65 ⑤、⑩：アップするのが望ましい

・協働と行政。行政全体で取り組むことの説明。

F8 市民と企業との協働があり、多様なサービスがうけられている協働

市民意識調査における「市民と行政の協働体制づくり」の満足度 (す 104)	市民意識調査における「行政サービスの改善」の満足度 (す 30)	指定管理者制度により管理している施設数 (す 110)
現：3.65 ⑤、⑩：アップするのが望ましい	現：3.48 ⑤、⑩：アップするのが望ましい	現：83施設 ⑤、⑩：アップするのが望ましい

F12 みんなで情報を共有し、一緒に話し合える場があり、市民・企業が共感をもつ行政サービスが実現出来ている行政サービス

市民意識調査における「行政サービスの改善」の満足度 (す 30)	市民が参画して行う施策評価を実施した数	市民意識調査における「透明性の高い行政情報の提供」の満足度 (す 111)
現：3.48 ⑤、⑩：アップするのが望ましい		現：3.52 ⑤、⑩：アップするのが望ましい

F13 施策優先度と市民ニーズが反映され、公共サービスを継続的に提供できる財政基盤が構築されている行政サービス

将来負担比率(借金の全体比率)の割合 (す 32)	市の各事業において費用対効果を測定する機会をもった事業の数	
現：206.2% ⑤、⑩：減少傾向になるべき	測定する事業を一つでも増やしていく方向が望ましい	

・VFM?わかりやすい言葉だと嬉しいですね。

F15 国・県・他市町村と効率的な役割分担の仕組みが構築されており、効果的な公共サービスが実現している行政の広域連携

単年の市事務事業における県費負担の伸び率 (県支出金収入済額) (す 113-1)	国・県・市の役割が異なる立場の主体者が話し合った数	
現：5.7% ⑤、⑩：増加傾向が望ましい	調査したうえで上昇することが望ましい	

F16

<ふりかえりカードから>

○ほかのグループの発表を聞き、指標設定の難しさを再認識しました。

○現課にいったんお返しして見ていただきたいと思いました。

○指標の資料をきちんと集めてほしい。

○角度を変えて指摘されるようになるほどと思う。更に審議要す。

○1日休むと、ついて行くのが大変なので次回も来るようにしなくては。最後、ファシ經由で意見等他の班から頂いたが、やはりMyグループでは気づいていなかったことも結構ありまして、とても助かりました。

○自分達では「完ペキ」と思っている、指摘されるようになるほどと感心する。色々な方向からの見直しはより良い目標を立てるためには必要ですね。

○1カ月あいてすっかり抜けている。検討は常に追われているので、多少の緩急があって検討に余裕が欲しい気もする。

○データを集めるために負担を相手にかけてしまうことが想定されるものが多く、悩ましさを感じている。プレゼンの方法とその時に参加者の見ているものを事前にしっかり説明すべき！正確に伝えられない。

○前はやむなく欠席、今回は遅刻してしまいました。が、ファシリテーター様からいねいな説明をいただき、なんとか追いつくことができたように思います。

○指標としている参加者数や利用者数については、総じて「各年齢層がまんべんなく！」という結論に至ると感じた。

○指標、水準をグループで考えてきたのですが、最初（第1ステージ）にかかわった人が出席されていなかったのも、理想と合っているのか苦慮しました。まとめの発表には気を使いました。

○100を超える指標を生かすよう（具現する方法）を市政に反映するよう対策を望みたい。